

Dr.'s REPORT

RF SYSTEM lab.

ドクターズ・レポート | 「デジトゲンNAOMI」をお使いのドクターによる
製品やサービスに関する生レポートです。

現像液のあの臭いが、妊婦さんのストレスに。

産婦人科の患者さんは全員が女性。しかも、妊娠中は誰も神経質で敏感になる。つわりのひどい患者さんもいる。そんな時、現像液のあの酸っぱい臭いが院内にただよっていたら、それ自体がストレスになってしまう。そもそも、レントゲン撮影はできれば行いたくないのが患者さんの気持ち。大げさな撮影装置を目にしただけでイヤな気分になってしまうだろう。

産婦人科医にとって、レントゲンは悩みのタネ。

内科や外科と違い、産婦人科はそれほどレントゲン撮影を必要としない。毎日撮影が必要……そんな医院はまずないだろう。しかし、撮影が必要になるケースは必ず起こる。例えば当院では、帝王切開が必要な場合にはレントゲン撮影を行う。平均すれば週に1~2回。しかし、そのために毎日のように現像液や現像機をメンテナンスしていなければならない、フィルムのレントゲン機器は、コストや手間ばかりかかる「金食い虫」。産婦人科医にとっては悩みのタネなのだ。そんな時、デジトゲンNAOMIの存在を知る。

患者さんにやさしい検査を 低コストで行えるという発見。

デジタルだから現像は不要。しかも、撮ってすぐモニターで画像を観察できるという。これなら、子宮卵管造影にも使えるのではと考え、導入を決めた。

子宮卵管造影は、不妊症の治療には必ず必要な検査。ところが「痛みが伴う」という先入観があり、患者さんには敬遠されてしまう。しかし、患者さんがいやがるからと言って、本来必要な検査を先延ばしにし、治療に時間がかかってしまうようなことは避けなければならない。

当院では、不妊症の治療にはまず最初に卵管造影を行う。デジトゲンNAOMIを導入してからは、医師にとっても、患者さんにとっても、よりやさしい検査が可能になった。撮ってすぐ画像を見られるので、モニターで確認しながら、必要な部位の撮影を的確に行える。大病院にあるようなX線TV装置に近い観察ができるのだ。しかも、撮影しながらコントラストの調整ができるので、造影剤の注入も最低限で済む。患者さんにやさしい卵管造影検査を、低コストで行える。これは使える製品だと思った。

今月のレポート医院

モアレディスクリニック様

伏屋龍夫先生 (岐阜県北方町)



患者さんの利益になる、新しい技術を。

私は、機械的・形式的な治療は極力排除すべきだと考えている。産婦人科こそ、患者さんの立場に立った視点が必要だ。当院では最先端の4D検査を岐阜県ではじめて導入した。新しい技術を積極的に導入し、上手く使いこなしてこそ、患者さんの利益になると考えている。そんな考え方に、デジトゲンNAOMIはうまくマッチしたのだ。

2007
10
vol.10

女性にやさしいデジトゲンNAOMI。
これは、産婦人科医にとって
「使える」製品だ。